

2025年1月27日 第95回運輸政策セミナー

～移動困窮社会にならないために～

宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所の会長をしております宿利です。

本日の運輸政策セミナーにも、大変多くの皆様にご参加いただいております。運輸総合研究所のこの狭い会議室が満席になっておりますし、またオンラインでも多数の皆様にご参加をいただいております。本当にありがとうございます。

さて、公共交通やモビリティを変革することによって、すべての人がその目的に応じて、安心して、かつ、容易に移動することができる社会を創り出し、その結果、国民1人1人の Q.O.L.を高め、ウェルビーイングを実現することに真に役立つ活動こそ、私は、運輸総合研究所のいわば「1丁目1番地」と考えております。

このような観点から、当研究所ではこれまでも、「2050年の日本を支える公共交通」、「地域交通産業の基盤強化・事業革新」などの多様な研究と政策提言を行って皆様に関わらせてまいりました。現在も、地域公共交通に関する制度のより本質に踏み込んだ改善や、鉄道、バス、タクシーの自動運転化の加速に関する研究などを行っており、近く提言や中間報告の形で皆様にお示しする予定です。

本日のテーマであります「高齢者等の移動手段の確保」につきましても、その一環として、マイカーへの過度の依存からの脱却を目指して、本日ご登壇いただきます東京大学名誉教授の鎌田先生を座長として検討委員会を設け、2021年の11月から約1年半にわたり、精力的に研究を進めていただきました。そしてその成果を2023年6月に政策提言として公表いたしました。また同時に、この提言内容を基に、シンポジウムを開催し、参加者合計1,345名、このうち例えば地方公共団体からの参加者が310名という、大変高い関心を持っていただきました。私は、日本の社会が少しずつ動き出す気配をその時に感

じたことを覚えております。

これらの一連の成果につきましては、より広く多くの方々と共有したいと考え、鎌田先生にご尽力をいただき、また、本日まで登壇いただきますモビリティジャーナリストの楠田悦子さんのご協力を得て、「移動困窮社会にならないために」というタイトルで書籍にまとめ、昨年3月末に出版をいたしました。

一方で、高齢者等の移動手段の確保のための現実の取組みについては、近年、本日まで登壇いただきますネクスト・モビリティ社の「のるーと」や、本日まで会場にご参加いただいておりますアイシン社の「チョイソコ」など、利便性が高い優れたサービスが登場し、徐々に社会実装が進みつつある状況にあります。

しかしながら、全国には既に広範囲にわたって「交通空白地域」が存在しており、また、社会実験止まりの事例も多数にのぼります。さらに社会実装に至ったものの、将来にわたっての事業の持続可能性が見込めないものが多いなど、未だ解決すべき課題が山積しているのが実状であると考えております。

本日は、昨今の新たな状況や、これから我が国が直面することになる、さらに厳しい現実をしっかりと直視して、「移動困窮社会にならないために」国や、地方自治体や、社会や、地域や、交通事業者や、そして、そもそも「我が身の問題」である個々人が、今から、何を、どうすればよいのかについて、改めて一緒にしっかりと考えてみたいと思います。

本日のセミナーが、ご参加いただいている多くの皆様にとりまして、私たちの、この日本が「移動困窮社会にならないために」真に有益なものとなりますことを心から期待いたしまして、私の挨拶といたします。

皆様、それでは本日までどうぞよろしくお願いいたします。

以上